

2050年に暮らしやすい酒田市の財政を通して日本の財政を考える

酒田市立第一学校教諭 3学年 五十嵐 一弥

実施年月日：令和6年12月2日～13日 53名

1 実践計画・指導のねらい

中学生にとって税制度や国の予算は身近なものではなく、税収を原資として諸活動が行われていることは見えづらい。そこで本単元では生徒にとって身近な酒田市の財政問題について検討することとした。今回の単元では「将来住みたい（帰ってきたい）酒田市の姿」をイメージさせることで、市長として予算案を編成させる課題を設ける。その際ダイヤモンドランキングを使用し、最重要項目を選択させることで生徒個人の予算編成を簡単にするねらいである。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問（○）、生徒たちの反応（●）、使用教材等（□）
1	・財政政策を通して、「税」が果たしている役割についてイメージを持たせる。	○ 政府の果たす役割はなんだろうか ● 所得格差を小さくするためにも、税が果たす役割が大きい ● 高額所得者の負担が大きくなりすぎると不公平感が強まる □ アメリカの地方TV局のニュース映像
2	・我が国の税制度について理解し、今後の税制について考えさせる。 	○ 日本の将来のために予算の使い方を考えよう ● 累進課税制度を強化して、社会に必要な財源とすべきだ ● 消費税の税率を上げ、広く社会で財源を捻出すべきだ ● 消費税を完全に福祉目的税化して社会保障をカバーする □ 社会科「中学生の公民」（帝国書院）
3	・社会保障制度と社会資本の整備について理解し、我が国の現状と課題を認識する。 	○ 今後日本はどのような国を目指していくべきだろうか ● 社会資本は現在のレベルを維持していくべきだ ● 人口減少時代に合わせて、インフラを縮小していくべきだ ● 何が起るかわからないからセーフティネットが必要 □ インフラの老朽化を報じる民放地方局のニュース（北海道） □ 首都高老朽化に伴う改修工事を報じるニュース（ANN）
4 ・ 5	・酒田市が抱えている課題を理解し、克服するための予算を考える 	○ 10年後に住みたくなる酒田市の予算案を立てよう。① ○ 酒田市の現状を資料から読み取ろう。 ● 少子高齢化と人口の流出に伴う社会減が進んでいる ● 商工業を発展させて税収を増やし、その後民生費に充てる □ 酒田市広報（2024年4月1日号） □ 酒田市当初予算記者会見資料（2024）
6	・市民に説明する設定で予算の使い道を検討する 	○ 10年後に住みたくなる酒田市の予算案を立てよう。② ● 教育費は大事。普段使っている施設もここからの支出 ● 商工業を発展させて、若者世代を酒田に定住してもらう ● どの世代に対しても良い点があるようにしたい ● もっと時間が必要。授業時間の中だけでは決められない □ 酒田市当初予算記者会見資料（2024）
【単元のまとめ】（学習プリントの記述から） ● 将来自分が税金を納める立場になったら、住んでいる場所の財政に関心を持ちたい。 ● 行政サービスと負担とのバランスを見極めることが重要である。		

【指導のポイント】＜1時間目＞

単元の学習に取り組むために、税が果たす役割と必要性について、アメリカの消防による消火活動をしてもらえなかった事例を報じるニュース映像を使い我が国の様々な分野に税が使われていることを確認することができた。

【指導のポイント】＜2時間目＞

私たちの生活を支える税制度について理解を深めた。所得税と消費税のしくみを比較し、どちらに重点を置いた税制を取るべきなのか、メリットとデメリットを確認することができた。「水平的公平性」を重視する生徒と「垂直的公平性」を重視する生徒がほぼ半々となった。

【指導のポイント】＜3時間目＞

高度経済成長期に全国各地に作られたインフラが一斉に老朽化し、維持管理に予算が必要なこと、少子高齢化が進む我が国において社会保障財源が必要であることを認識することができた。

【指導のポイント】＜4時間目＞

酒田市の広報に掲載された資料から、酒田市が抱えている課題について認識し、自分が10年後に住みたくなる酒田市を目指すための予算を編成。この際に、目指す姿に簡単にたどり着けるようにダイヤモンドランキングを使用して、各生徒の考えが形成しやすいように配慮した。

【指導のポイント】＜6時間目＞

前時までに作成した個人の予算案を小グループで持ち寄り、グループ内で市民に発表する予算をどうするかを検討した。多様な他者の考えに触れて、視点の多様性に気付かせる意図があり、合意形成の困難さと相手を説得するための丁寧な説明の必要性について考えさせた。

3 実践の成果（◎）と課題（◆）（租税教育を実施後、教諭自身の感想や児童・生徒の反応、他の教諭に対して、今後参考としてほしい事項など）

- ◎ 将来自分たちが納税者になった時に、居住する自治体や我が国の税金の使い方や使い道に対して関心を持つことは、社会科で育成する「公民的資質」の一端であると考えている。現在自分たちが住んでいる酒田市の財政について考えることをきっかけにその「税」について考える視点を持たせることができた。
- ◎ 今回ダイヤモンドランキングの手法を用いて考えたことで、ゼロベースから考えるよりも生徒にとって簡単であった。優先順位をどうするかで様々な視点の差異が見られたことも良かった。
- ◆ 税の学習後の単元構成で、国家財政についての学習後に、スケールの異なる酒田市について学習するのが良かったかどうか疑問が残る。過去には同様の学習を地方財政の単元として行ったこともあったが、「税」が原資であることの認識は薄かったため、扱う時期については要検討である。
- ◆ 酒田市の予算計画の発表方法が変わり、詳細な数値を公表するようになったため、支出の透明化の点からは望ましいことであるが、中学校の教材として使用する際には細かすぎるという難点があった。